

リベンジハイキング 県民の森・丸山

服部記 狭山班

ハイキング部の定例ハイキングが8月4日開催されました。このハイキングは、4月28日に計画されたもので、コロナ騒ぎで6月まで自宅塾居を強いられ、やっと、行くぞ!と なったら梅雨に入ってしまった、6/23、6/31、7/7 と3回も連続雨で流れ、やっと8月 になって実行できたものです。実に前回のハイキング(3/24)から4カ月半ぶりです。4 月の企画は所沢班が行ってくれたのですが、狭山班が引継ぎ、どうしてもリベンジしたい と今回のハイキングになりました。

このコロナ下に集まったのは、慎重で向こう見ずで(人生)経験豊かなハイカー女性2名、 男性5名です。車・電車などで芦ヶ久保駅前・道の駅に9時10分集合しました。コロナ 下のハイキングの注意事項を「好日山荘」のHPからダウンロードしてプリントして来てく れた会員がいます。感謝です。熱中症を警戒してマスクは外し、2m以上の距離を保ちなが ら、大きな声のおしゃべりを避け歩くことにします。

好日山荘のHP 「新しい登山様式 チェックポイント」

https://www.kojitusanso.jp/common/img/page/pickup/mt_style/2006_atarasi_i_tozan.pdf

梅雨の間は早く明けてくれないかとぼやき、梅雨が明ければ暑いと文句を言いながら、い ざ出発。久しぶりなので、近所の坂道で足慣らしをしてきたという殊勝な人、先月には山小 屋に泊まって北アルプスを歩いてきたというタフな人など様々。かくいう筆者は足首の不調 で先週はほとんど歩いていない、少し不安を抱えつつ出発です。歩き始めからしばらくは、 日陰のない舗装道路を歩きます。9時過ぎになるとすでに日は高く、路面は舗装されている とはいえ、傾斜は緩くなく、出足から厳しいスタートです。しかし30分も歩けば、杉林の 中に入ります。やはり日陰は涼しい、助かった!と思う間もなく、傾斜はきつくなり、一歩 一歩、しっかりと足元を注意しながら歩きます。久しぶりに緑陰の中を時々渡る風に「気持ちいい!」と小さな声が聞こえます。30分に1回程度休憩をとり、「県民の森」へ到着。 昼食は「ソーシャルディスタンス」を意識して離れて座ります。写真を参照してください。 緑の草地が綺麗です。

食事を終えいざ出発、丸山頂上の展望塔を經由して、大野峠に向け下山が始まります。展 望台の眺望は、モヤがかかり、せっかく望遠鏡が設置されているにもかかわらず、イマイチ でした。途中パラグライダーの離陸場がありました。白石峠・堂平山の遠くに悠々とパラグ ライダーが滑空しています。どうやってどこに降りるのか話題になります。どうやら麓の草 地に降りるようです。

延々と下り坂が続きます。登りもつらいけど、下りもつらい、たまには登りがあったほうがいいと、ぜいたくなぼやきが聞こえます。数日前まで雨が降っていたせいか、登山道は滑りやすくなっており、神経を使います。また、沢の水が多く、普段なら滝を作らないようなところでも滝のように水が流れ、また、小さな沢を横切る際には手を濡らしたり顔を洗ったりすることができます。

いよいよ山道を降りきり、車道に出ます。これから、1.5km、陰のない国道を芦ヶ久保に戻ることになります。そこで、準備してきた傘をさすことにしました。これは結構役立ちました。15:00、ほぼ計画通りの時間に全員無事に戻ることが出来ました。

今回のハイキングでは、ほとんど他のグループとすれ違うことはありませんでした。これは平日でハイカーが少なかったこと、また、このルートが芦ヶ久保→県民の森→丸山→大野峠→芦ヶ久保という一方通行的なコースによるのかもしれませんが。そのせいか、他人との接触による感染の不安は全く感じませんでした。また、グループ内でも食事や休憩の際にも距離を保つように心がけ、感染のリスクを避けられたと思います。参加人数が7人と手ごろなことがあったのかもしれません。この様なハイキングを実施しておればコロナ下でも全く問題がないと感じました。次回は9月、入間班の主催です。案内を待ってまーす。









